

事例紹介Ⅲ
地方創生・移住促進などに貢献する
特色ある「森のようちえん」
三重郡菰野町「森の風ようちえん」の場合

「森と自然を活用した保育・幼児教育に関する自治体勉強会」 in中部

2018, 7, 13 岐阜県立森林アカデミー 森の情報センター



見えるところが全て教育資源



森の風で願ったこと

- 「自分の食べるものを自分の手で作りたい」
- 「いのちの源流に最も近いところに子ども達を委ねたい」
 - 「子どもたちに希望を残したい」

なぜなら「いのちの感覚はいのちによってしか養われない」から。

知識の切り売りや小手先の保育では間に合わない時代になってる

保育とは生きることの根幹と向き合うこと・・・

子どもの育ちにとっての最善を考えていくと私達の生活も生き方も整ってくる



森の風ようちえん・しぜん学校のフィールド



森の風ようちえんのこれまで

- 2005年 耕作放棄地開墾始まる
- 2007年 森の風ようちえん開園(7名)・森の風畑開墾
- 2008年 森の風田んぼ開墾
- 2009年 年少組保育室増設
- 2010年 森の風キッズ(2歳親子)・森の風ベビー(1歳親子)開始
- 2011年 年中組、2歳児保育室増設(やすはるおじいさんの家)・しぜん学校用地借用しぜん学校開始
- 2012年 しぜん学校用地に東屋を建てる・しぜん学校の森作りが本格的に始まる
- 2013年 千草里山塾開始
- 2014年 小さな森のようちえん(1,2歳親子)三重県民の森にて開始
- 2014年 9月「一般社団法人 森の風」設立 縦割り保育開始
- 2015年 認可外保育施設登録
- 2016年 創立10周年記念行事 しぜん学校に東屋2棟目建設・認可外保育施設証明書受領
- 2016年 三重県野外体験保育アドバイザー派遣業務委託を受ける・森の風保育学講座開始
- 2017年 「三重ほくせい野外保育の会」による「三重出前トーク」
- 2018年 三重県野外体験保育者養成講座事業委託を受ける 現在園児数 46名



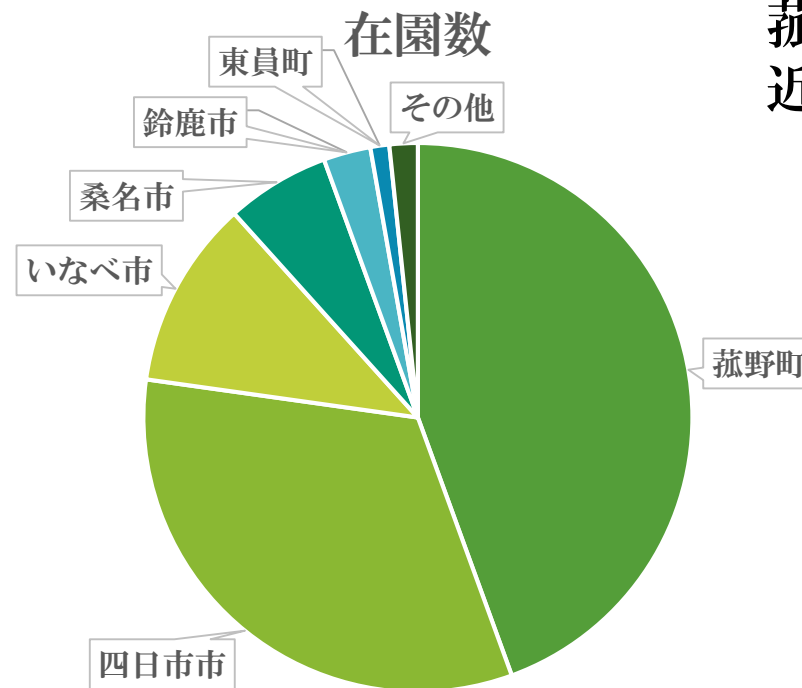
2018年までの地域別在園数と移住者

森の風へ入園の為の移住者

菰野町への移住者：15家族
近隣市への移住：5家族

合計 **20家族**

地域	在園者数 (累積)
菰野町	80
四日市市	59
いなべ市	20
桑名市	11
鈴鹿市	5
東員町	2
その他	3



■ 菰野町 ■ 四日市市 ■ いなべ市 ■ 桑名市 ■ 鈴鹿市 ■ 東員町 ■ その他



菰野町千草をフィールドに150名の子ども達が育っている！

1~2歳の親子の為に

- 森の風ベビー(1歳の親子) 週1回 年間30回 定員10組
- 森の風キッズ(2歳の親子) 週1回 年間30回 定員10組
- 小さな森のようちえん(1,2歳の親子) 週一回 年間40回 定員25組 三重県民の森とのコラボ事業
- 「森であ~そぼ」しぜん学校の森のフィールド開放 0~2歳親子 月2回 定員20組程度

2018年度 国土緑化推進機構 緑と水の森林ファンド助成金

森の風ようちえん 認可外保育施設

満三歳より5歳児 定員50名 2クラス 縦割り保育

スタッフ10名 その他の職員4名 畑スタッフ2名

小学生の為に森の風しぜん学校

- 自然組・里組・深山組 月二回ずつ 定員各20名程度 計60名 スタッフ9名
- 母子寮の子ども達のしぜん学校 月一回 10名程度



2018年度の他園との活動

- (県主催) 三重県野外体験保育アドバイザー派遣 4園 フォローアップ 2園
- 野外保育コンサルティング2園(他園のフィールドを使い野外保育のサポートをする)
- フィールド開放 2園 (森の風のフィールドを使って野外保育をする)

学習会

- 2017年度森の風保育学講座 年4回 (2017年度国土緑化推進機構助成金によって)
- 2018年度三重県野外体験保育者養成講座 (三重県委託事業) 年6回
- 2018年度森の風事例研究会 年3回
- しぜん学校の森整備と「三重県における森と子どもをつなぐ勉強会」2018,3,24
講師：速水林業 速水亨氏・国土緑化推進機構 木俣知大氏



森で育つと
おきると
良いこと

子育てへの安心が高まる

- 子どもの育ちへの理解が深まり、安心して子どもを育てられるようになる。
ほかの子と自分の子を比べないで、共に育ちあう仲間との関係がある、
困ったときに助け合う、相談できる関係が日常的にある。

子育てが楽しいと感じる・・・98% 自分の生き方も大切にしたい・・・92%

子育てを通して世界と視野が広がった・・・98% 子育てを通じて自分も成長していきたい・・・98%

今の生活は自分らしい・・・94% (三重県野外体験保育有効性調査より)

- 一家族の子どもの人数が平均値より多い。

森の風ようちえん(2018年度) 各家庭の子どもの数

子どもの人数・・・平均**2,1人** (2015年の国立人口問題研究所による調査では平均**1,94人**)

4人・・・2家族

3人・・・10家族

2人・・・16家族

1人・・・11家族

計・・・39家族に82人の子ども達がいる。



三重出前トーク開催

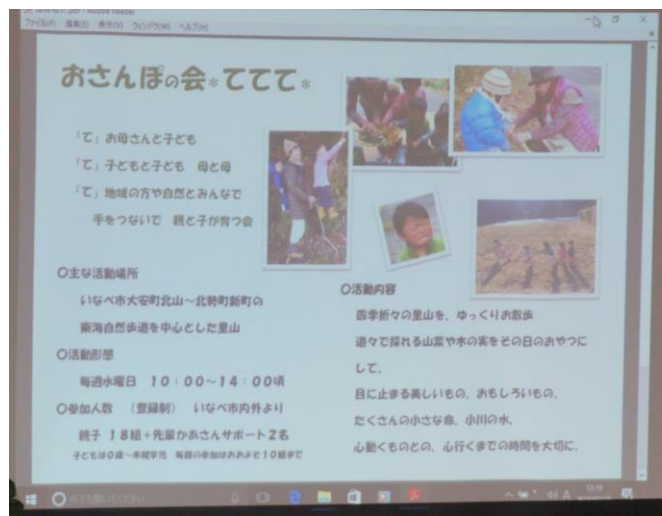
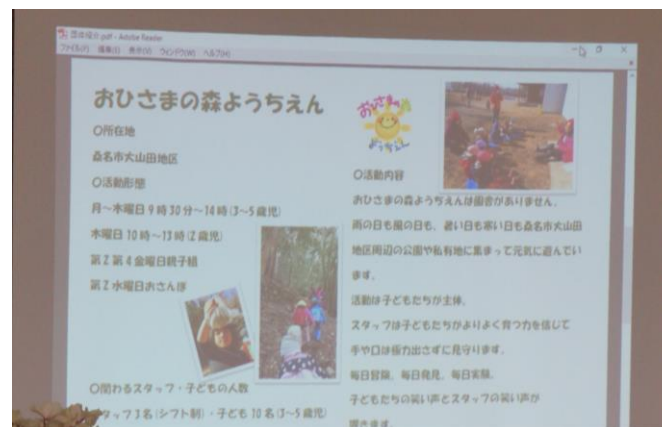
2018,2,15

主催 三重ほくせい野外保育の会



森のようちえんを
守りたい

お母さんの眩きが大きなウェーブに



森で育つと
おきる
良いこと

子どもと子どもの未来を
中心に据えると
地域がつながる
環境がよみがえる



森で育つと
おいこと
良いこと

地域の環境の保全につながる

■ 空き家 3軒の空き家を活用

■ 耕作放棄された田んぼ 全体で5反(5,000㎡)

子ども達の田んぼ

ようちえん保護者の田んぼ

一家で取り組む 7家族 グループで取り組む 7家族

■ 耕作放棄された畑 約一反半(1,500㎡)

子ども達の畑

家庭菜園 (13軒)

生産の場としての畑



2005年

2017年



森で育つと
おいこと
良いこと

藪になっていた山がきのこの生える里山へ

- ・ 約7,000m²を森の風ようちえん・しぜん学校の拠点とする
森林山村多面的機能発揮交付金(3年間)

2017年度卒園記念として駐車場から拠点までの道をつける母達
2016年より森の整備の日「森の同窓会」3月21日(国際森林デー)

- ・ 千草里山塾 炭焼き・シイタケ栽培 ~2013年

村のおじさん達7名とようちえんの7~8家族が炭焼き小屋を作り、
月一回集まり活動が続けている。周辺の里山の木を切り出し、
炭焼きに使うことで里山を保全。

森林山村多面的機能発揮交付金によって始動

- ・ キコリス(林業主婦を目指す集団) ~2014年

ようちえんの母親達が活動を始める





2012年の東屋



2017年の東屋





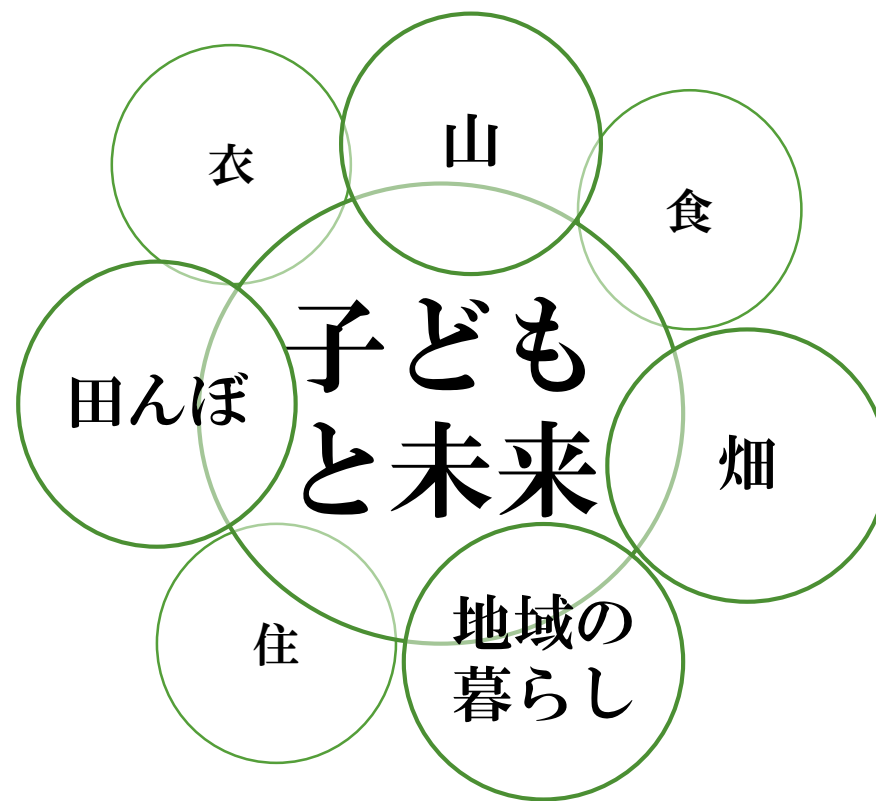
子ども達がここで煮
炊きをするたびに、
森は生きた
里山へ戻っていく



森と自然を活用した保育・幼児教育の可能性

子どもと子どもの未来を
中心に据えると地域がつながる
環境がよみがえる

森で育つと
おきる
良いこと



児童憲章

昭和26年5月5日制定

「われらは、日本国憲法の精神にしたがい...全ての児童の幸福をはかる為にこの憲章を定める」

- 「児童は人として尊ばれる」
- 「児童は社会の一員として重んじられる」
- 「児童はよい環境の中で育てられる」

12,全ての児童は、愛とまことによって結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するように導かれる

